

令和4年度 学力向上に係る効果的な取組事例
「教科等の目標を達成するための一人一台端末の活用」
 久喜市教育委員会・久喜市立久喜東小学校

研究主題

『PISA 型読解力の育成を中核とする主体的・対話的で深い学びを実現する授業設計及び指導方法とその効果についての研究』

目指す児童像

その1

物事の中から問題を見出し、基礎的・基本的な知識及び技能を活用して解決できる子

その2

自分の考えを形成し、考えを適切に伝え合い、多様な考えを受け入れることができる子

その3

様々な情報から適切な情報を選択し活用できる子

その1

自分の考えを表現する為に、様々な情報をもとに思考することで、PISA 型読解力を高めることができるだろう。

仮説

その2

自分の考えの根拠を明らかにし、表現したり対話したりする場面を意図的に取り込むことで、PISA 型読解力を高めることができるだろう。

手立て

その1の手立て

- ICT 機器を活用し、web 上のテキスト・図・グラフ・表などの情報を利用する。
- 情報の取捨選択能力を育成する。
- 思考ツールを活用する。
- 新聞ワークシートに取り組む。
- 音読・読書を推進する。
(内容を理解し、評価しながら読む)

その2の手立て

- 様々な文章や資料を読み、自分の意見を述べたり書いたりする。
- テキストに基づいて自分の考えを表現する。
- ICT 機器を利用して自分の考えを表現する。
- 他者の考えを聞き、自分の考えを再考し課題を解決する。

全教職員による実践共有

教科：社会 単元名：「縄文のむらかた古墳のくにへ」1～3 時間目		13:44 7月20日 オクリンクができたことで、歴史学習のしやすさはだいぶ向上しました。骨の4つのテーマを絞ることで、視点が明確になり、学習しやすくなりましたね。ぜひ全部の時代をつなげてみてほしいです。
取り組みの意図・目的 縄文・弥生時代のむらかた古墳を視覚的に取り取り、4つの観点で整理された。3時間目では、この整理したものをオクリンクで2つ調べ、縄文から弥生時代に変化したことでむらかた古墳にどんな変化があったか、その変化には何が関係しているかを考えさせるために行った。	成果・課題 成果：縄文と弥生時代のむらかた古墳をフィッシュボーンで同じように整理したことで、縄文から弥生時代への変化をとりやすくなった。その変化の理由も考えることができた。 課題：1時間の中で調べ学習、伝え合い、全体共有まで終えることができなかった。	
経過・画面・児童の様子 縄文のむらかた古墳の4つの観点で詳しく調べた。同じ観点で調べたことで変化がとりやすくなった。		

ICT 活用例

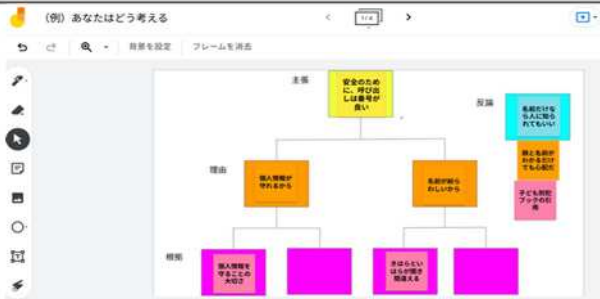
10:33 7月25日
 読書ごとにそれぞれの時代はどうだったのか変化を知ったり振り返ったりできて良かったです。これからもやっていきたいです。

コメント機能で相互研鑽

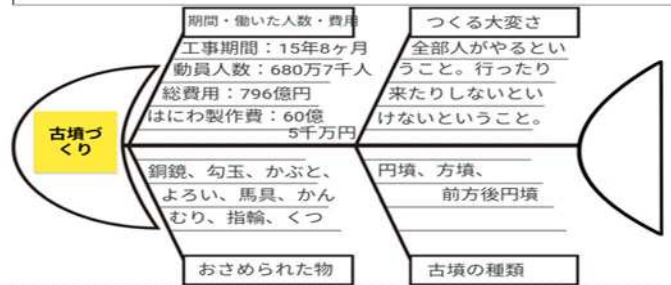
PISA 型読解力向上に向けての実践例

3のばめん	2のばめん	1のばめん	え	
				いっぴきめの あおむし
				にひきめの あおむし
				さんびきめの あおむし
				おおきな 木

国語「やくそく」の学習では、3びきのあおむしがおおげんかする場面からやくそくにかわる場面までの状況を整理するためにJamboardでマトリクスを使って情況整理を行った。



ムーブノートの広場を活用することで、どんな意見が出たのかを視覚的に捉えやすくなる。また、似た考えをまとめることで、自分と異なった意見を知りきっかけづくりにもなる。

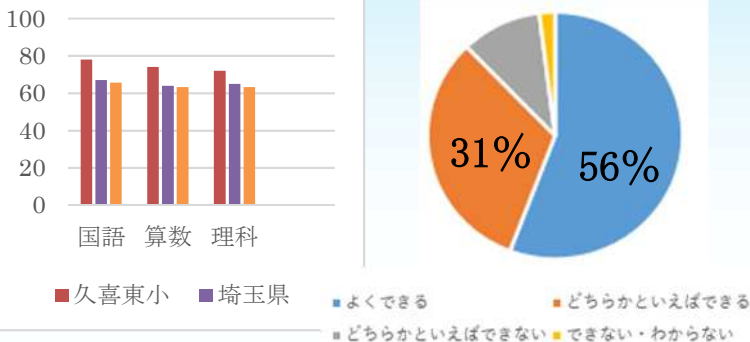


8枚のスライド資料から読み取り、フィッシュボーンに整理させた。これをもとに伝え合いや全体共有をして理解を深めさせた。

思考ツールに考えをまとめさせる際、Jamboardを用いることで、自由に付箋を増やしたり、動かしたりさせ、整理することができる。付箋の色を、主張・理由・考えで変えて視覚的にも違いを理解できるようにした。

成果と展望

全国学力・学習状況調査



ICT機器を用いて考えをわかりやすく表現することができる

○令和4年度の「全国学力・学習状況調査」の平均正答率が県平均、全国平均を上回っている。日々の積み重ねが学力の定着に繋がっていると考える。

○ほとんどの児童が、各教科においてGoogle Workspaceやミライシードを用いて、自分の考えを表現できるようになった。ICT機器を用いることで、児童同士で意見を共有しやすくなった。(大勢の意見を短時間で可視化することや発表に消極的な児童の意見を可視化することなど)それにより、自分の考えを表現しようとする意欲につながった。

△文科省より出されている「GIGAスクール構想」についての「1人1台端末・高速通信環境」を活かした学びの変容イメージを、本校の実践に照らすとステップ2にあたる。さらなる学力向上を図るためにステップ3につなげる実践に取り組んでいく。

「1人1台端末・高速通信環境」を活かした学びの変容イメージ

